

一般質問

市政のここが

DX推進について

島崎 孝
(自民クラブ)



質問 生産年齢人口の減少が予測される将来、多様化する行政ニーズに対応し、市民サービスを維持していくことは大変困難になり、その対策を取る時間ももはや長くない。東久留米市DX推進方針（たたき台）の今後のスケジュールについて伺う。

答弁 総務省の制度である地域情報化アドバイザーによる意見を反映した素案に対し、本年7月にパブリックコメントを行い、8月に庁議決定し、本年第3回市議会定例会において行政報告を行うことを予定している。

質問 施設の使用料、事務手数料等のキャッシュレス決済の導入について、どのように考えているのか伺う。

答弁 使用料・手数料等のキャッシュレス決済について、導入により市民サービスの向上に資すると考えるが、課題もあり、まずは他自治体の実施状況などを研究する。

安全・安心の暮らしのために

島崎 清一
(自民クラブ)



質問 新型コロナウイルス感染症対策における、①3回目および4回目接種の状況は、②小児接種の状況と医師会との協力的体制は。

答弁 ①3回目接種は、6月14日時点で7万555人、接種率66・5％である。4回目接種は、令和3年12月末までに3回目接種を完了した60歳以上の方に

対し、接種券を発送した。今後、3回目との間隔を踏まえ順次発送していく。

②6月14日時点で1回目接種が1109人、接種率16・2％、2回目接種が914人、接種率13・4％である。医師会とは、協議会の開催など様々な場面や機会を捉え意見交換を行っている。

質問 民法改正18歳成年について、①相談体制は、②市民への周知は。

答弁 ①消費者センターで有資格者の相談員が1日1名から2名体制で相談を受けている。②広報および市ホームページで周知、注意喚起している。

今後のDX推進について

関根 光浩
(公明党)



質問 東久留米市DX推進方針（たたき台）の今後のスケジュールは。

答弁 総務省の制度である地域情報化アドバイザーの意見を反映した素案に対しパブリックコメントを行い、8月に庁議決定をし、本年第3回定例会において行政報告を予定している。毎年8月に改定している実行プランにどのように記載していくかは現在検討しているところである。

質問 アドバンス・ケア・プランニングの取り組み状況は。

答弁 市内の医療や介護の多職種専門職で構成する在宅医療・介護連携推進協議会で検討されてきた。令和3年3月発行の在宅医療ガイドブック第3版に東久留米版「わたしの覚え書きノート」を作成し、掲載している。

要望 厚生労働省の作成した動画の市ホームページへの掲載などによる啓発も必要であり、検討してもらいたい。

若者の思いに敏感な自治体であれ！

沢田 孝康
(公明党)



質問 東久留米市に対する若年層の思いを受け止め、市政に反映するための取り組みについて伺う。

答弁 市政に対する若年層の意見の受け止めについては、施策成果アンケートがあるが、18歳～29歳が一番低い年齢、調査全体の3.8％程度となっている。

質問 18歳以上の方のみのアンケート参加はどうかと思う。高校生世代の方々が市政に参加できることが大事と思う。福井県鯖江市では2014年からJK課をつくり、市政に関心の薄かった市民の女子高生を主役にして、さまざまなイベントを企画、協働まちづくりで大賞を受賞するなど、これまで100名近い女子高生が参画しているとのこと。東久留米市でもぜひ取り組んでいただきたい。

答弁 市政に対する若年層の思いを受け止めることは大切。今後研究させていただく。

都市農業を継続できる東久留米へ

鴨志田 芳美
(日本共産党)



質問 貴重な都市農業を継続するためにはどういったことを大事にしたいと考えているか。

市長 東久留米の貴重な財産である水と緑の中には当然農地が含まれていると認識している。今年度に関しては認定農業者等に対し、農機具等購入費用の一部助成を行う。限られた資源と財源ではあるが、都市農業振興に向けて市としてできることは行っていきたい。

質問 中学校給食の「温かい給食への手法」は、いつまでに判断するのか。

答弁 さまざまな自治体の先行事例を参考にしつつ、衛生面での安全性・保温性の確認やおいしさの追求、時間内でのスムーズな提供の方法・手順の構築など、本市において導入するに当たり確認・解決すべき事項について調査・研究・検討を重ねているところであるため、具体的な時期については現在申し上げられない。

クリーンエネルギーで気候危機打開を

北村 龍太
(日本共産党)



質問 今後、地球温暖化対策実行計画の改訂に当たり、クリーンエネルギーの導入が求められるが、市の見解は。

答弁 自然環境から生み出される太陽光を含めたクリーンエネルギーは、天候や地理的条件に大きく左右されるとともに、設備投資費用等の課題もある。クリーンエネルギーの導入については、温室効果ガス排出削減を進める上で重要な施策の一つと考えている。

質問 高齢者の聞こえの対策として補聴器購入の助成を実施する考えは。

答弁 高齢者への補聴器の購入助成を現段階で市として実施する考えはない。なお、助成に関する多摩26市の動きについては、担当課長会やその他会議等を通じて情報共有を既に図っている。

また、国等への助成の要望については、東京都の予算編成に対する市長会要望を通じて行っている。

医ケア児の受け入れ指針、策定へ

梶井 琢太
(未来政策フォーラム)



質問 医療的ケア児支援法が令和3年9月に施行、学校・幼稚園・保育所へ、たんの吸引等ケアができる看護師や保育士等の配置や支援センターの設置を求めている。法施行後の対応は。

答弁 都で医療的ケア児支援センターを多摩地域に1カ所、区部に1カ所、今年度の秋頃に設置する予定と聞く。

質問 文科省等の医療的ケア児への補助金交付も既に4月に始まり、現場から受け入れ体制やガイドラインを整備する必要があると考えるが、①保育園について、ガイドライン等作成の検討は、②同様に学校での検討は。

答弁 ①どのようなスキームで受け入れていくか等を整理したガイドラインを今後検討していく、②就学前の状況を考慮する必要があるが、福祉や保育等の関係部署と連携し、支援体制を構築する基となる要綱やガイドライン等の策定について検討していきたい。

ボール遊びのできる公園の整備を

佐藤 一郎
(未来政策フォーラム)



質問 市長の公約であり、子育て世代から強い要望のあるボール遊びのできる公園は、現在市内に何カ所あるのか。

答弁 都立六仙公園、上の原中央運動広場を含めて現在8カ所。それ以外の公園・緑地等については、原則として一律ボール遊びを禁止している。

質問 ボール遊びのできる公園整備に向けた手法や今後の方向性は。

答弁 現在、市内の公園・緑地等について、ボール遊びを可能とするために必要な設備や面積等、条件について調査を進めている。

質問 一口にボール遊びのできる公園といっても、年代によってイメージに差があると思う。ボール遊びの内容により公園等の使い分けをすべきでは。

答弁 年齢や遊び方により求められる環境やルール等も異なることから、そういったことも踏まえて、検討を進めてまいりたい。

東久留米市、未知(道)への挑戦！

宮川 豊史
(久留米ハートネット)



富田竜馬新市長が「やればできる！」を掲げ、やれる・できる市役所を目指す考えを明確に示したことにより、東久留米市役所は前向きで積極的になった。新しいことにチャレンジすれば失敗することもある。それでも負けずにチャレンジしてこそ成功は訪れる。

富田新市政の新たな取り組みの一つが道の駅。道の駅は実現すれば東久留米市の地域経済に多大な効果をもたらすが、その実現は極めて困難。もし本気で取り組みたいなら、自分の思いを自らの言葉で語るべき。

東久留米市はこれまで住宅都市として発展してきたが、今後は人口減少が見込まれる。人口減少と市外への消費の流出を食い止め、地域経済を発展させるために、道の駅の集客力は大きな魅力。都心から一番近いという話題性もある。難しい課題だが、何もしないという選択は私にはない。

今後、市にとって必要なものは？

中野 淳子
(市民とともに歩む会)



質問 東京都の緑地保全地域では、近年、樹木の伐採が進められているが、その理由は。また、伐採は計画等に位置づけられているものなのか。

答弁 東京都では、強風による倒木被害の軽減や環境の改善、樹木の越境対策等を目的として緑地保全地域の境界から5メートル程度の樹木を伐採し、林縁部の整備作業を実施している。伐採に計画の位置づけはなく、管理運営上の一環とのことである。

質問 道の駅の設置について、道の駅以外にカフェや類似の施設も多くあると考えられる中、なぜあえて道の駅の設置をしようとしているのか。

市長 道の駅は、たまり空間機能、地域の情報発信機能、地域連携機能を併せ持ち、加えて特産品の販売や古くから親しまれている土地の食文化を提供できる地域活性化の拠点として非常に魅力ある施設であると考えている。